

「ありがとう」

鳥取県 円福寺副住職 家森俊孝  
えんぶじふくじ いえもりしゅんこう

私は、普段僧侶のかたわら福祉や介護の仕事もしており、高齢者の方と触れ合う機会が多くあります。日々、施設の利用者さんに楽しく過ごしてもらえよう奮闘しています。が、逆にお世話をしている私の方がいつも学ばせていただいている毎日です。

そんな勤務の中で気づいたのが、着替えや、食事、トイレの介助などのお世話で、皆さんが事あるごとに感謝の言葉「ありがとうね」を言ってくださることです。デイケアからの帰宅の際も、私が「ありがとう」を言っていました。また来週お迎えに上がりますね」と言うと、利用者さんが「こちらこそありがとうね。気いつけて戻らないよ」と言葉をかけて下さり、お世話している私の方が元気をいただいている毎日です。「ありがとう」と言葉をかけてもらうと、言われた方は「よかった」と本当に嬉しくなります。また「ありがとう」と言った方も心が温かくなるのではないのでしょうか。

仏さまの教えに、愛を語ると書く「愛語」があります。「愛語」とは、母親がわが子に語りかけるような優しい言葉、相手に寄り添い慈しみの心を持ち、思いやりのある言葉で接するという意味です。利用者さんと職員が、互いに感謝の言葉をかけあう姿は「愛語」そのものではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、最近では催しなども再開されていますが、人と人の関わりはまだまだ希薄に感じます。またSNSの普及によって顔を合わせなくても交流できる世の中になり、その匿名性から誹謗中傷という問題も多くなっています。

このような時代だからこそ、日々私たち一人ひとりが相手に寄り添う「愛語」の教えを実践していくことで、心温かな毎日が過ごせるのではないのでしょうか。私も利用者さんのように、どんなに小さなことでも、すぐに「ありがとう」と言えるよう心掛けていきたいものです。